

◎ 休んでいただく病気と期間

症状により一概には決められませんが、学校では学校保健法で児童・生徒の保健管理のために下記のように定められております。保育園でもこの基準に基づいてお休みいただきますのでご了承ください。

	対 象 疾 病	出席停止の期間の基準
第一種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎(小児麻痺) コレラ 痘そう 南米出血熱 重症性急性呼吸器症候群 鳥インフルエンザ	治癒するまで
第二種	インフルエンザ 百日咳 麻疹(はしか) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 風疹 水痘(水ぼうそう) 咽頭結膜炎(プール熱) 新型コロナウイルス感染症 結核 髄膜炎菌性髄膜炎	解熱した後、2日を経過するまで 特有の咳が消失するまで 解熱した後3日を経過するまで 耳下腺の腫脹が消失するまで 発疹が消失するまで 発疹が痂皮化するまで 主症状消失後2日を経過するまで 発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで 伝染のおそれなくなるまで 伝染のおそれなくなるまで
第三種	コレラ 細菌性赤痢 腸チフス パラチフス 腸管出血性大腸菌感染症 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 その他の伝染病	伝染のおそれなくなるまで

ただし、医師が適当と認める予防処置をしたとき、または医師がその伝染病の感染防止上支障がないと認めたときは登園して結構です。

※ 上記表の伝染病については、治癒しましたら**必ず医師の証明書(登園許可証)**〈巻末書式-1〉を持参のうえ、登園させてください。

☆ 登園許可証は保育園に用意してあります。登園日までに受け取りに来るのが難しい場合など、ご自宅に FAXいたしますのでご希望の方はお申し出下さい。また、当しおりのP11《登園許可証の様式》がございます。コピーしてご使用いただいても結構です。

☆ 寄生虫(頭ジラミ、ぎょう虫、ダニ等)が発見された場合は、専門医に受診し速やかに駆除していただきますようご協力をお願いします。

◎ 保育所で予防すべき感染症

以下の感染症は集団生活において感染力が非常に高いものです。発症、発病の際はしっかりご家庭で加療し回復ののち登園してください。乳幼児によく見られるものです。ご参考にしてください。

病 名	病原体	感染経路	潜伏期間	出席停止期間	備 考
○新型コロナウイルス感染症	ウイルス	飛沫感染	1～3 日	発症後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで	
○インフルエンザ	ウイルス	飛沫感染 接触感染	1～4 日	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日するまで	
○百日咳	百日咳菌	飛沫感染	7～10 日	特有な咳の消失し、全身状態が良好になるまで	抗生剤を決められた期間服用する。 7 日間服用後は医師の指示に従う。
○麻疹(はしか)	ウイルス	飛沫感染 空気感染 接触感染	8～12 日	解熱後 3 日	
○流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	ウイルス	飛沫感染 接触感染	16～18 日	腫脹発現後 5 日を経過、かつ全身状態が良好になるまで	
○風疹	ウイルス	飛沫感染 接触感染	16～18 日	発疹の消失	
○水痘(みずぼうそう)	ウイルス	飛沫感染 空気感染 接触感染	14～16 日	発疹のかひ化	
○咽頭結膜炎 (プール熱)	アデノウイルス (主に3型)	飛沫感染 接触感染 *特にプール	2～14 日	主症状消失後 2 日	
○結核	結核菌	飛沫感染 空気感染	6 カ月～2 年 一様でない	医師の判断	感染の恐れがないと認められるまで
○腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素産生性大腸菌	経口感染	3～4 日	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48 時間あけて連続 2 回の検便によっていずれも菌陰性が確認されるまで	
○流行性角結膜炎	アデノウイルス (主に8型)	接触感染 飛沫感染	2～14 日	症状が消失してから	
○急性出血性結膜炎	エンテロウイルス (70 型)	接触感染 飛沫感染 経口感染	1～3 日	医師の判断	
○溶連菌感染症 (A 群溶連菌感染症)	A 型溶連菌	接触感染 飛沫感染	2～5 日	抗菌薬服用後 24～48 時間後	治療の継続が必要
○ウィルス性肝炎 (A 型)	ウイルス	食品媒介感染 糞口感染	15～50 日	肝機能が正常化するまで	集団発生しやすい 黄疸
○手足口病	コクサッキーウイルス	飛沫感染 時に経口	3～6 日	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるまで	
○伝染性紅斑 (りんご病)	ヒトパルボウイルス	飛沫感染	4～14 日	全身状態が良くなるまで	
○ヘルパンギーナ	コクサッキーA 群ウイルス	飛沫感染 経口感染	3～6 日	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるまで	

○マイコプラズマ肺炎	マイコプラズマ	飛沫感染	3～6 日	発熱や激しい咳が 治まるまで	急盛期過ぎれば 登園可
○感染性胃腸炎 (ウイルス性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症)	ロタウイルス 小型球形ウイルス	経口感染 飛沫感染 食品媒介 感染	1～3 日(ロ タ) 12～48 時 間(ノロ)	嘔吐・下痢等の症 状が治まり、普段 の食事がとれるま で	「お腹の風邪」とも いわれる
とびひ 伝染性膿か疹	黄色ブドウ球菌 溶血連鎖球菌	接触感染	2～10 日	医師の判断 皮膚が乾燥してい るか、浸潤部位が 被覆できる程度 のもの	広範囲になりやす い プール禁止
○突発性発疹	ヒトヘルペスウイルス 6・7型	飛沫感染 経口感染 接触感染	約 10 日	解熱し、機嫌が良 く、全身状態が良 くなるまで	
伝染性軟属腫 (水いぼ)	伝染性軟属腫ウイル ス	接触感染	2～7 週間 (～6 カ 月)	停止の必要なし	大きいものや炎症 を起こしているも のは要治療(医師 の判断による)
○アタマジラミ	アタマジラミ	接触感染	10～14 日	原則は休んで駆除	駆除を開始してい ること
ギョウ虫症	ギョウ虫	食品媒介 感染	不定	停止の必要なし	要治療(医師の判 断による)
○サルモネラ感染症	サルモネラ菌	飲食物 経口感染 食中毒	72 時間	医師の判断	サルモネラ菌陰性 で集団生活可能 の診断書必要
○髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎菌	飛沫感染 接触感染	1～14 日	医師の判断	感染の恐れがな いと認められるま で
○RS ウイルス	ウイルス	飛沫感染 接触感染	4～6 日	呼吸器症状が消 失し、全身状態が 良くなるまで	
○帯状疱疹	水痘・帯状疱疹ウイル スの再活	接触感染	不定	すべての発疹が痂 皮化するまで	
単純ヘルペス感染症	ウイルス	接触感染	2 日～2 週 間	発熱がなくよだれ が止まり普通の食 事ができること	歯肉口内炎 口周囲の水痘
B 型肝炎	ウイルス	母子垂直 感染 父子や集 団生活で の水平感 染	B 型肝炎 ウイルスが 検出され る期間	症状が消失し全身 状態が良いこと キャリア・慢性肝炎 の場合は登園に制 限はない	一般に血液浸出 液が直接皮膚や 粘膜に触れること は感染のリスクが 高い

なお、○印のものは出席停止期間終了後に初めて登園する際に登園許可証〈書式-1〉の提出をお願いいたします。○印のないものでも園長が必要としたものに関しては個別に登園許可書の提出をお願いする場合がございますのでご協力をお願いいたします。